

令和4年度第2回 横浜自然観察の森指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和4年11月30日(水) 10時00分～14時30分
開 催 場 所	横浜自然観察の森自然観察センター研修室
出 席 者	倉本宣委員長、芦川弘委員、上野寛子委員、田中操委員、古瀬浩史委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	非公開
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回議事要旨の確認 ・書類審査の評価の説明 ・現地確認 ・面接審査 ・評価 ・審査結果報告書・第2回議事要旨について
決 定 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回議事要旨 ・書類審査の評価 ・評価
議 事	<p>1 開会 みどりアップ推進担当課長あいさつ 定足数の確認</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 第1回議事要旨の確認 事務局より説明 委員全員 内容を確認し、公表することについて了承した。</p> <p>(2) 書類審査の評価の説明 事務局より説明 委員全員 内容について了承した。</p> <p>(3) 現地確認 委員全員で現地確認を実施。</p> <p>(4) 面接審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接についての説明 事務局より説明 委員全員 内容について了承した。 ・面接審査 指定管理者への面接審査を実施

	<p>(5) 評価 事務局より説明 委員全員 評価について決定した。</p> <p>(6) 審査結果報告書・第2回議事要旨について 事務局より説明 委員会全員 了承した</p> <p>3 閉会 みどりアップ推進担当課長あいさつ</p>
<p>質 疑 応 答 ・ 意 見 等</p>	<p>書類審査の評価の説明について (質疑応答)</p> <p>委 員 コロナウイルス感染拡大防止のために閉館していた期間と範囲はどうだったか。</p> <p>事務局 本市市民利用施設のほとんどが令和3年2月29日から5月末まで閉館した。指定管理協定期間内としては、4月1日から5月31日まで、自然観察センター建物のみを閉館し、屋外は公開していた。</p> <p>委 員 維持管理で行われている皆伐更新は、指定管理者またはボランティアが行う作業をコーディネートしたものであらか。</p> <p>事務局 保全管理計画にもとづきボランティアが行う作業を指定管理者がコーディネートしたもの。</p> <p>委 員 ナラ枯れ被害木の伐採は指定管理者また市のどちらが行っているか。</p> <p>事務局 方針は市と協力して決め、主に指定管理者が行っており、規模や費用が指定管理の協定の範囲を超える場合には、市も負担して実施している。</p> <p>委 員 工夫して広報を行っているとのことだが、アンケートを見ると栄区・金沢区在住者の回答が多く、それほど広域に利用者が訪れているとは言えないのではないか。広報の効果はどのように把握しているか。</p> <p>事務局 指定管理者は、アンケート以外にも、ホームページ閲覧回数についても参考にして、効果を把握している。</p> <p>面接審査 (面接審査)</p> <p>委 員 車いす利用についてはどのように対応しているのか。</p> <p>指定管理者 上郷森の家のバーベキュー駐車場に障がい者用の駐車スペースを確保しており、場合によってはセンター前まで車両の通行を許可して対応している。</p> <p>委 員 収支報告書の中で人件費が減額になっている理由は。</p>

指定管理者	2020年度は、コロナ禍でパートやアルバイトなどの出勤が予算時の見立てよりも大きく減ったことで通勤手当が減った。
倉本委員	植物の刈り残しや粗朶柵で人の立ち入りを制限しているようだが、守らない人もいるのか。
指定管理者	まったくないというわけではないが、ほぼ毎日ボランティア活動していて、管理者の目が多いことが効果として大きい。
委員	飼い主のいない猫への対応策は。
指定管理者	自然観察の森では餌やりが禁止であることについて理由を含めて周知し、餌やりをしている方にコミュニケーションをとりながら地域の方と連携して対応している。
委員	苦情の内容はどういったもの多いのか。
指定管理者	コロナ禍で利用者が大幅に増えたことに関連し、利用者同士の距離感や感染防止についてなどの問合せが多く、サイン掲示などで対応した。
委員	子どもたちの体験活動は、自然観察以外にも、将来に役立つような内容が望ましいと思う。
指定管理者	学校利用が多く、いろいろな種類の体験の要望をいただき、観察資源の保全の視点も重視しながら、先生とは綿密に打合せをしながら内容を決めている。子どもたちにとっても身近な自然になるので、今後も要望があればプログラムを考えて対応したい。
委員	環境管理マニュアルは貴重な財産だと思うが、どのように使われているのか。
指定管理者	管理の手法だけではなく、貴重種の情報も含まれているため、盗掘の危険もあるので、これを一般公開する予定はない。
委員	調査報告は自主的に発行されているようだが、どのように使われているのか。
指定管理者	レンジャーやボランティア、学生などの調査結果が埋もれないように、次世代にもつなげられるようとりまとめ、ホームページにも公開するようにした。
委員	スタッフ間での情報共有はどのように行われているのか。
指定管理者	全員集まるミーティングは月2回行っている。毎日の日報で苦情や対応状況などの情報を整理して、翌朝のミーティングで確認している。
委員	自然観察の森を訪れる人のうち、センターを利用する人の割合は。
指定管理者	以前調べた結果から、センター利用者の3倍ぐらいの人が自然観察の森を利用していると考えられている。
委員	3倍の利用者について、センターを利用してもらえるような工夫は。
指定管理者	野外看板などでイベントの掲示をしたり、トイレや自動販売機の案内をしている。イベントやスタッフ紹介のため、隣接した町内会への回覧なども行っている。

委 員	隣接だけでなくもう少し周辺の自治会・町内会に周知を広げた方がよいのではないか。
委 員	外来種の防除で、ヤマアカガエルの産卵数が増加するなどの効果は出ているようだがそれ以外の生きものに変化は見られているのか。
指定管理者	ヒキガエルやマムシやヤマカガシなども増えているように感じる。
委 員	確認されているへびの種類は。
指定管理者	アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリなどになる。今年度、アライグマ駆除による生態的効果については論文投稿している。
委 員	ボランティアが大きな役割を果たしていると思う。3者協働をするにあたって、ボランティアへの姿勢などについて教えてほしい。
指定管理者	横浜自然観察の森の設置当初からの「地域の自然は地域で」という考えを引き継いでボランティアの活動を黒子として支えるような取り組みを行っている。高齢化など会員が減少するグループについては、レンジャー内で情報共有し、レンジャーの関わり方（サポートの仕方）などを常に考えている。
委 員	インターネットの普及と、これまでの紙媒体での広報をどのように考えているのか。
指定管理者	ワークシートなど、この森にきて利用するものについては、紙媒体として用意し、どこでも利用できるものについては、ホームページからデータをダウンロードできるようにしている。今後は自主事業で作成している鎌倉との連携マップをダウンロードできるようにしたい。
委 員	自然観察の森の紹介動画を、小学校などに貸し出してはどうか。
指定管理者	希望があれば貸し出しをし、ここに来る前に見てもらっている。
委 員	レンジャーに案内してもらうことで、希少種や外来種のことなど森の重要性などを理解することができると思うが、一般の利用者も案内してもらえるのか。
指定管理者	すべての個人利用者に対して対応するのは難しいので、ボランティアが観察会で説明したり、学校などには先生に事前に説明したり動画を提供したりして、できるだけ多くの方に伝えられるようにしている。
委 員	大学の生徒にも自然の管理方法などを知ってもらいたいので、ポスターやパンフレットなどの掲示や配架など、広報の部分での更なる強化を期待している。
指定管理者	横浜市立大学にはボランティアセンターに情報を提供し、ボランティアを受け入れ始めた。今後も徐々に範囲を広げていきたい。
委 員	大学生実習生の受け入れについて詳しく教えてほしい。
指定管理者	市内の大学に声をかけて、10日間ぐらいインターンとして受け入れている。レンジャーの仕事を体験し、イベントのサポートなどを経験してもらう。

	<p>委員 素晴らしい取り組みだと思う。</p> <p>(講評)</p> <p>委員 横浜自然観察の森は、ボランティアとの連携や維持管理がとても良くされていることがわかった。こんな素敵な場所であることを、一般の利用者（大人達）にもレクチャーしてもらえる機会があると、利用者もこれまでとは違った目で森を見て、違った形での参加をしてもらえるのではないかと思うので、そういった方向に力を入れてもらえることを期待する。</p> <p>委員 こういったネイチャーセンターのような施設をいくつも見ているが、自然観察の森はモデルとなるような良い活動をしていると感じている。目に見えるところだけでなく、生物季節の情報を長期的に残し、取りまとめられている点など高く評価できる。</p> <p>委員 横浜自然観察の森は歴史もあり、日本で誇れる施設でもある。自主事業でもあった外来種であるアライグマの駆除によって、ヤマアカガエルが増えたという結果は驚きでもあるし、そういった調査を長年の間、地道にやってこられたボランティアと、それを指導してきたスタッフの取組をもっと知ってもらいたいと感じた。そのためには、小中学校だけでなく、広く積極的に周知してほしい。今日も、子どもたちが生き生きと伸び伸びと活動し、いろいろと感じて帰っていく様子を見ると、人間らしさを取り戻す場所として、自身も大学生を連れてくるなどもっと活用したいと感じた。そのためには、やはり今よりも広報に重点を置いてほしいと感じた。</p> <p>委員 自身が生活している場所と一体としてつながった自然観察の森がどのように保全されているのか改めて認識できた。地域の人々にもその重要性を伝えたいと思うし、子どもたちにもこの場所を誇り思ってもらいたい。指定管理者がきめ細かな配慮で管理をしてくれていることに本当に感謝している。</p> <p>委員 今日、指定管理者からの環境管理マニュアルの話などを聞いて、植物だけでなく、より生態系でいえば上位を考える主体が管理者であったほうがよい、ということを感じた。環境管理マニュアルは、管理者のためだけのものではなく、管理作業がただの労力ではなくて未来に繋がるものであることが分かるので、もっといろいろな使い方ができるのではないかと感じた。ほかの委員の話にもあったように、自然観察の森のことを広く知らせて、もっとたくさんの人と共有してほしい、という期待に応えることにもなると思う</p>
資 料	<p>【資料1】 第1回選定評価委員会議事要旨</p> <p>【資料2】 令和4年度第三者評価の実施方法について（第1回委員会資料の再掲）</p> <p>【資料3】 横浜自然観察の森 指定管理者第三者評価シート</p> <p>【資料4】 現地確認ルート</p> <p>【資料5】 横浜自然観察の森 指定管理者第三者評価面接審査評価シート</p>